

あとがき

「あなたのやっていることは、学校や国会にこそ必要だ」

初めて出会った方と、名刺交換をして「どんなお仕事をしていますか？」という質問に答えると、何人の方が、このセリフを僕に届けてくれました。僕自身は、会議のファシリテーターが本業で、家族会議から国際会議まで、あらゆるジャンルの話し合いを進行させていたのが仕事です。そういう意味で教育現場は、ちよつと「畑違い」などころがありました。が、うちの娘や息子が小学校に通い始めるにつれ、「あー、確かに、学校現場にもファシリテーターが必要なんだな」と感じるシーンに出会いました。そんな折、前著『リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイクベスト50』でもお世話になった、雑誌『月刊学校教育相談』にて学校の先生向けのファシリテーションの連載をさせていただき、大変ありがたい機会をもらいました。その二〇一五年四月号から二年間の連載をベースに修正・再構成し、対談などを加えたのがこの本です。

大学では授業をもっていますが、教員免許もなければ、実際に小中高校の教壇に立ったことのない僕が書いた本ですので、いまいちピントはずれなところもあるかと思えます。もしそうだったら、ごめんなさい。この本で対談させていただいた岩瀬直樹さんは、「この本は、学校現場の外

の人が書いているから面白いんだよ」と優しい言葉をかけてくれました（泣くほどうれし！）。
どうか、実際にそうでありませうように。当人としては、学校現場の先生方のご苦勞を想像して、できるかぎり役立てるように書いたつもりです。

が、今一度、内容を見直すと、学校向けのファシリテーションの本でありながら、山伏、落語、スター・ウォーズ、大谷翔平、ネイティブ・アメリカン、老子といった、「学校とぜんぜん関係ないじゃん！」と突っ込まれそうなコンテンツもふんだんにちりばめられた本になっています。これもまた、学校現場外の人が書いた面白みと思つて、楽しんでいただければ幸いです。

また、この本は、学校の先生方をメインの読者として想定した本になっていますが、実のところ「教える」「人を育てる」仕事をしているすべての方にお役に立ててもらえたらうれしいです。自動車教習所の先生や、コーチングや人材育成の仕事をしている方、個性的な社員を抱える中小企業の社長さん、部下の成長を期待する上司など、さまざまな方のお役に立てますように。

僕が日本で初めての会議ファシリテーション専門事務所を設立したのが二〇〇三年のこと。プロの進行役にお金を払ってファシリテーションを依頼するという習慣がなかった日本で、まがりなりにもここまでやってこられたのは、この本に登場するファシリテーターの先輩方の教えや、周りの方々のおたくさんの支え、そして、家族の応援があったからです。これまでお世話になった方々への感謝の気持ちをこめて、筆を置きます。ありがとうございました。

二〇一八年五月

青木将幸